

第3ラウンド公募結果・ 選定事業者の計画概要

2025年3月10日

経済産業省資源エネルギー庁

国土交通省港湾局

第3ラウンド公募結果概要

- 青森県沖日本海（南側）、山形県遊佐町沖で合計約110万kWの第3ラウンド公募を実施。
- 全ての参加事業者が、迅速性が満点となる2030年6月に運転開始時期を設定し、ゼロプレミアム水準（3円/kWh）で入札。
- 青森では、JERAを代表企業とするコンソーシアムが選定された。
（高く評価されたポイント）
 - ① 資材価格の高騰や為替変動等により事業費が増加するリスク等についての精緻な分析
 - ② 建設の遅延等のリスクが発生した場合でも計画どおりに事業が実施できるスケジュール
 - ③ 多くの風車部品の国内製造拠点を有することによる強靱なサプライチェーン構築
 - ④ 中長期にわたる地域や漁業の発展・振興に資する提案（県知事意見）
- 山形では、丸紅を代表企業とするSPCが選定された。
（高く評価されたポイント）
 - ① 商務条件の履行の確実性が高いオフテイカーの確保
 - ② 建設の遅延等のリスクが発生した場合でも計画どおりに事業が実施できるスケジュール
 - ③ 重要部品の予備の確保など、風車の故障の際に速やかな再稼働を可能とするサプライチェーン構築
 - ④ 県水産物の販路拡大等、遊佐町漁業の持続的発展に繋がる地域共生策の提案（県知事意見）

1. 青森県沖日本海（南側）の評価結果

事業者名	事業計画概要				評価点 [補正後合計点は、小数点第2位まで表記（第3位を四捨五入）]					
	運転開始 予定時期	発電設備 出力 (万kW)	風車メーカー 風車型式 (出力)	基数 (基)	総合点 (A + B)	価格点 [120点満点] (A) 選定事業者のみ 供給価格公表	事業実現性評価点 [120点満点]			
							補正後 合計点 (B) 注1	補正前 合計点 (C = D + E)	事業の実施能力 [80点満点] (D)	地域との調整等 [40点満点] (E)
つがるオフショアエナ ジー共同体注2	2030/6/30	61.5	SGRE SG DD-236 (15MW)	41	240	120 (3円/kWh)	120	110.625	70.625	40
青森南洋上風力開 発合同会社注3	2030/6/30	49.5	GE Haliade-X250 (16.5MW)	30	202.71	120	82.71	76.25	51.25	25
津軽七里長浜洋上 風力合同会社注4	2030/6/30	57.0	Vestas V236-15MW (15MW)	38	185.08	120	65.08	60	40	20

(注 1) 事業実現性評価点は、公募占用指針に基づき、以下のとおり補正。
事業実現性評価点 = (提案者の評価点 / 同一の促進区域における公募参加者の最高評価点) × 120

(注 2) 構成員（代表企業下線）
株式会社JERA、株式会社グリーンパワーインベストメント、東北電力株式会社

(注 3) 構成員（代表企業下線）
シー・アイ・ファイブ・コーポレーティブ・ユー・エー、東急不動産株式会社、北陸電力株式会社、戸田建設株式会社

(注 4) 構成員（代表企業下線）
ヴィーナ・エナジー洋上風力株式会社



■ 当コンソーシアム概要と強み

株式会社JERA

- ・国内最大級の発電事業者。
- ・多数の発電所で長期に亘るO&M実績あり。
- ・台湾・欧州における海外洋上風力の豊富な事業経験。
- ・子会社Parkwindが欧州で持つ13年以上の洋上風力発電所O&M実績。

株式会社グリーンパワー
インベストメント (GPI)

- ・国内外で風力発電創業期から多数の開発、建設、O&M実績を持つ再エネ事業者。
- ・県内ウィンドファームつがるを通して、2009年から当該地域と連携。
- ・先行開発により本海域の地域関係者との対話・調整を推進し、信頼関係を構築済み。
- ・石狩湾新港洋上風力発電所の完工による国内の数少ない洋上風力経験と実績。

東北電力株式会社

- ・東北地方で70年以上にわたり発電所の建設、O&Mの実績を持つ電力会社。
- ・東日本大震災や東北地方特有の自然災害時の緊急時対応等の豊富な経験。
- ・地域におけるNo.1の電力小売事業者であり、再エネ電気の地産地消を実現。
- ・東北地方において長年の電力安定供給を通じた地域との信頼関係を構築。

- ・豊富な洋上風力発電の経験(国内外+O&M)
- ・地域に根差した開発力と地元の受け入れ
- ・長年の東北地方での電力事業実績

■ 事業実施体制

洋上風力の経験豊富な布陣による確実な事業実施

- ・国内外での洋上風力の経験が豊富な構成員を役割に応じて適材適所に配置。
- ・風車と洋上施工は石狩湾新港と同じ協力企業であり、円滑な連携で予定通り完工した実績を踏まえ、インターフェースリスク等を回避するプロジェクトマネジメント能力の保有。



■ サプライチェーン形成計画の概要、国内経済波及効果の中心的施策

国内調達率を最大限高めた風車モデルの導入
(風車40%・事業85%達成)

- ・国内調達や環境配慮を追求した風車導入によりサプライチェーン形成の試金石とする。

事業全体での国内調達率85%

国内調達率を最大化した風車モデル導入

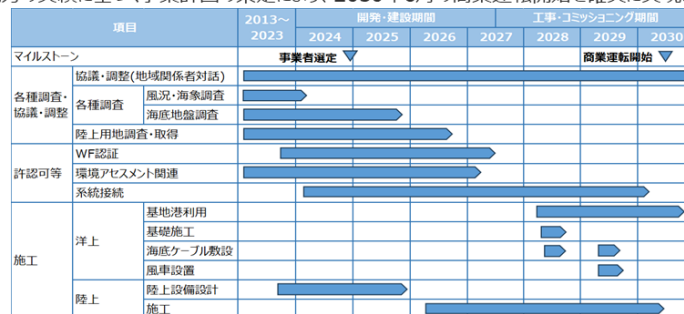


風車単体国内調達率40%
(一般的には5%以下)

■ 工事計画

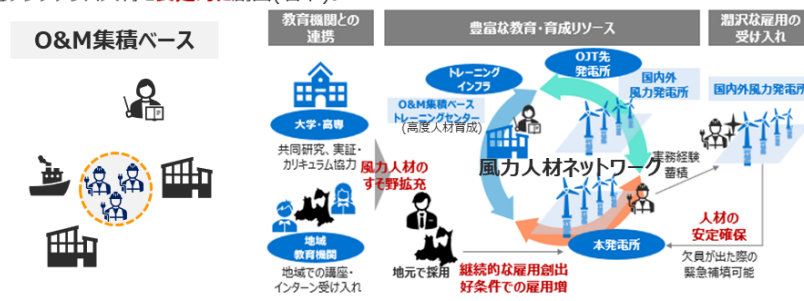
2030年6月商業運転開始(事業者選定から5.5年)

- ・2014年からの各種調査実績と、石狩湾新港の経験に基づく許認可プロセス理解、国内外洋上風力の実績に基づく事業計画の策定により、2030年6月の商業運転開始を確実に実現。



稼働率最大化へ、重要部品を保有し調達期間短縮、独自スキームによる高度な人材確保・育成を実現

- ・SGREと共に予備品保管庫、修繕工場、トレーニング施設等の様々なO&M機能を集約した「O&M集積ベース」を構築し、サプライチェーン強靱化により稼働率の向上と安定供給を支える。青森港・津軽港に北九州港を加え、3港湾の特徴を活かして連携し電力安定供給を担う(左下)。
- ・本事業と構成員保有の国内外洋上・陸上風力事業で独自の「風力人材ネットワーク」の仕組みを構築し、人材の採用、育成・教育、発電所間の人材ローテーションを行うことで、継続的に高度な能力を有するメンテナンス人材を安定的に創出(右下)。



■ 事業計画概要

発電設備出力	615MW(15MW/基×41基)
風車機種	SG DD236 15MW(SGRE)
運転開始予定時期	2030年6月30日
供給価格	3.00円/kWh
基地港湾	青森港
基地港利用期間	2028年4月-2030年8月(建設時)および撤去時
O&M港湾	青森港、津軽港
O&M港湾利用期間	2030年4月-2055年9月

■ 漁業・地域共生策の概要、地域経済波及効果

深い信頼関係に基づく、地域の意向に合致した施策の展開

- ・GPIは長年、地域の一員として地域関係者(漁業者を含む)の生活・操業を最優先して対話。
- ・地元自治体・青森県の計画、漁業者要望を踏まえた中長期に亘る地域課題の解決を図るとともに、青森県が掲げるAXの実現に貢献する振興策を早期かつ着実に実施。

地元が望み、地域を守り・育て・進化させる振興策の推進を約束
県内、国内外の幅広い企業と連携し0.7兆円の経済波及効果

	漁業振興	地域振興
守る	漁業施設・設備の整備、漁業持続化基金、開発時・建設時の警戒船・交通船備船	地域の防災力強化、人材派遣基盤の構築、移住・定住支援
育てる	漁業人材の確保・育成、漁場・藻場の整備、種苗放流・養殖事業	風力産業・風力人材育成、農林業の新産業育成、地域資源を生かした観光振興、港湾活用、教育・文化・スポーツ振興
進化させる	水産物のブランド化・販路拡大、スマート水産業・DX推進、漁業の多角化、海洋ごみ回収・活用	地域産品・県材のブランド化・販路拡大、カーボンクレジット活用、青森港・津軽港活用、電力地産地消、産業・教育・防災のDX

■ 国内経済波及効果

中長期的な国内風車産業・洋上風力発電産業の振興牽引、
1.6兆円の経済波及効果・9.5万人の雇用創出

風車産業	・国内調達最大化の風車モデル活用 ・SGREと国内企業とのマッチング ・SGRE・国内企業と連携した産業発展 ・風車リサイクル率向上(ブレード再利用等)
発電事業	・開発・建設プロセスの強化 ・O&M国内産業創出(O&M集積ベース活用) ・風力人材の裾野拡張(風力人材ネットワーク活用) ・将来の洋上風力導入に資する技術開発

2. 山形県遊佐町沖の評価結果

事業者名	事業計画概要				評価点 [補正後合計点は、小数点第2位まで表記（第3位を四捨五入）]					
	運転開始 予定時期	発電設備 出力 (万kW)	風車メーカー 風車型式 (出力)	基数 (基)	総合点 (A + B)	価格点 [120点満点] (A) 選定事業者のみ 供給価格公表	事業実現性評価点 [120点満点]			
							補正後 合計点 (B) 注1	補正前 合計点 (C = D + E)	事業の実施能力 [80点満点] (D)	地域との調整等 [40点満点] (E)
山形遊佐洋上風力 合同会社注2	2030/6/30	45.0	SGRE SG DD-236 (15MW)	30	240	120 (3円/kWh)	120	104.375	66.875	37.5
山形島海ウインドパ ワーコンソーシアム注3	2030/6/30	48.0	SGRE SG DD-236 (15MW)	32	219.88	120	99.88	86.875	59.375	27.5
やまがたゆざコンソーシ アム注4	2030/6/30	48.0	Vestas V236-15MW (15MW)	32	194.01	120	74.01	64.375	46.875	17.5
ゆざウインドパワー コン ソーシアム注5	2030/6/30	49.5	SGRE SG DD-236 (15MW)	33	191.86	120	71.86	62.5	40	22.5

(注1) 事業実現性評価点は、公募占用指針に基づき、以下のとおり補正。
事業実現性評価点 = (提案者の評価点 / 同一の促進区域における公募参加者の最高評価点) × 120

(注2) 構成員（代表企業下線）
丸紅株式会社、関西電力株式会社、BP Iota Holdings Limited、東京瓦斯株式会社、株式会社丸高

(注3) 構成員（代表企業下線）
株式会社ユーラスエナジーホールディングス、Equinor Japan合同会社、ENEOSリニューアブル・エナジー株式会社、豊田通商株式会社、戸田建設株式会社

(注4) 構成員（代表企業下線）
東京電力リニューアブルパワー株式会社、住友商事株式会社、三井不動産株式会社、東日本旅客鉄道株式会社

(注5) 構成員（代表企業下線）
丸電みらいエナジー株式会社、SSE遊佐洋上風力発電合同会社、石油資源開発株式会社

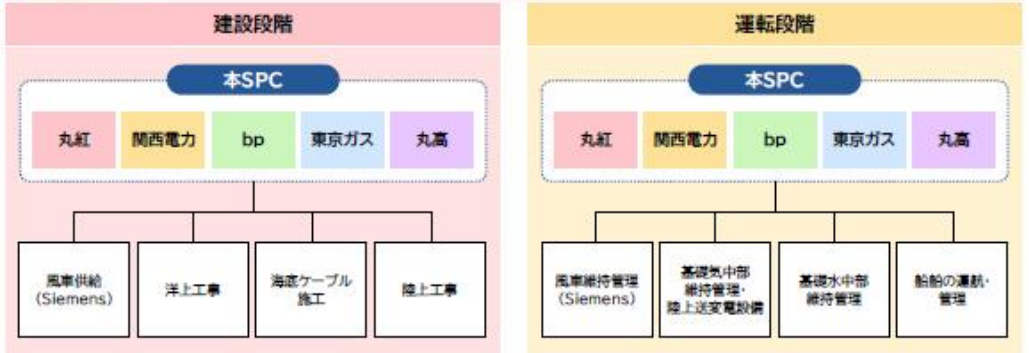
本 SPC の紹介



事業計画概要

事業者名	山形遊佐洋上風力合同会社
発電設備出力	450MW
基数	30 基
風車機種	SG DD-236+(Siemens Gamesa 製)
運転開始予定時期	2030 年 6 月
基地港	酒田港
基地港湾の利用期間	2028 年 4 月～2031 年 3 月（建設）及び撤去時
供給価格	3.00 円/kWh

事業実施体制



工事計画（スケジュール、利用する港湾名、港湾利用スケジュール）

工程	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
調査	▼事業者選定(2024.12)						運転開始(2030.6)▼
	海底地盤調査						
	環境アセスメント						
WF認証・適合性確認							
洋上工事	基地港湾利用(酒田港)				2028年4月 利用開始		
	基礎				2029年3月 工事開始		
	海底ケーブル				2029年4月 工事開始		
陸上工事	風車				2029年7月 工事開始		
	試運転			2027年11月 工事開始			

サプライチェーン形成計画の概要

- ・外部環境に左右されない継続的・安定的なハードに係るサプライチェーンを形成し、風車の主要部品の国産化・複線化・短納期化を図ります。なお、風車の主要部品以外についても、国内サプライヤーの洋上風力向け新技術・製品開発への支援等に取り組むことで、電力安定供給を実現します。
- ・詳細な人材育成計画の策定や教育機関と連携した雇用創出施策を講じるとともに、構成企業やそのグループ企業の豊富な人材プールを最大限活用した人材調達を行うことで、電力安定供給に必要な人材を確実に確保します。

地域共生策の概要

地域に「ねざす」	関係漁業者や地域の皆様との丁寧な協議、関係の深化、現場課題やニーズのくみ取りにより、実感を踏まえた実効的な協調・振興策を実現します
地域に「もたらす」	本 SPC 構成企業が異なる分野で有する強固なビジネス基盤を結集し、遊佐地域の社会課題に対して多様なソリューションを立案し、提案・実行します
地域に「のこす」	本 SPC を起点に多様な地元企業・人材を巻き込み、地域主体の協調・振興策を実現し、事業期間終了後も遊佐地域が継続して発展する仕組みを構築します



地域・国内経済波及効果

地域経済波及効果	生産誘発額	雇用者誘発数
	3,886 億円	32,241 人
国内経済波及効果	8,916 億円	48,698 人

・地域経済波及効果は、発電事業と地域振興の取組を両輪として、最大化に向けて取り組みます。
・国内経済波及効果は、本事業での国内調達の最大化や風車メンテナンスの早期内製化等を通じて最大化に向けて取り組みます。
・加えて、サプライヤー支援や人材育成等を通じて、中長期的な国内経済・洋上風力産業の発展に貢献します。